

# 学校紹介

五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校 永富 雅樹

## 1 はじめに

五ヶ瀬町は、町域北部から西部にわたって熊本県と接している。町の南西部には日本最南端のスキー場「五ヶ瀬ハイランドスキー場」が存在する。春は県の天然記念物に指定されている浄専寺のしだれ桜が桜色に、夏はヤマメが育つ川とお茶香る緑色に、秋は山々からだんだんと色づく紅葉色に、冬は光り輝く白銀に、季節ごとに表情が大きく異なり、四季の違いをはっきりと楽しめる町である。



【五ヶ瀬ハイランドスキー場】

本校は、平成27年度に五ヶ瀬町立三ヶ所中学校と鞍岡中学校が閉校し、2つの学校が統合されて翌平成28年度に創立した五ヶ瀬町唯一の中学校として9年目を迎えている。現在の生徒数は65名で、町内4つの小学校からの卒業生で構成され、約6割の生徒がスクールバスでの通学を行っている。また、中学校を卒業後に多くの生徒が町を離れ、寮生活をしながら高校へ通う状況があり、これまで以上にコミュニケーション能力を育成していく必要がある。

## 2 本校の特色ある取組

五ヶ瀬町では、「地域があって、子どもがいて、学校がある」という基本的スタンスのもと、幼児から高齢者までが生涯にわたって互に関わり合いながら学び続けることのできる地域創造・循環型の教育システムである五ヶ瀬教育グランドビジョン（以下「GV」）のもと展開され、小中学校9年間を見通した系統的・発展的な学習をめざしている。柱として、子供たちに最適な教育環境を提供し、一人一人の可能性を最大限に伸ばす「授業力の向上」と五ヶ瀬のよさを幅広く認識する教育活動を全教科・領域等において意図的・計画的に展開する「体験活動の充実」が挙げられる。

### (1) 豊かな体験活動の充実

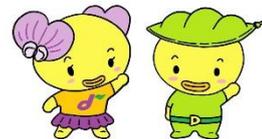
小学校からの集合学習（G授業）の流れを受け継ぎ、中学校独自の取組みを行っている。特徴的な取組は、コマ打ちした原木椎茸を育てたり、学校茶園で茶摘みをしたりした生産物を2年時の修学旅行（今年度は大坂の商店街）でPR販売を行っている。また、9年間の学習の集大成として3年時に生徒一人一人が町づくりへの提言であるGDP（五ヶ瀬デザインプロジェクト）発表を実施している。



【大坂でのPR活動】

### (2) 「早寝・早起き・朝大豆運動」の推進

五ヶ瀬町家庭教育五ヶ条の根底に流れる非認知能力の育成のためには健全な心身の育成が不可欠であることから、睡眠を中心とした生活リズムの適正化に取り組んでいる。「睡眠表（睡眠日誌）」の記入に取り組む、合わせて朝食に含まれるトリプトファンを確保するための「朝大豆」啓発にも取り組んでいる。



**早寝・早起き・朝大豆**

## 3 おわりに

一般的には不利であると捉えられがちな条件（山奥、少人数、過疎化など）を逆手にとって、新たな教育資源の開発・発掘に取り組んできたGVの更なる進化に向けて、町内唯一の中学校としてのイニシアチブをとっていきたいと考えている。